

Y I A 会員だより 2021年3月号

発行 ; 吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

第195号 ホームページ URL <https://yia2020.net/>



【3月以降の活動予定他】

<機関誌「よしのがわ」第17号の発行>

※会員の皆様には3月20日頃に郵送します。

<2021年度総会>

日時：5月9日(日) 13:00～予定

※開催方法等の詳細は今後決定します。

◆吉野川市内に在住する外国人

萩森 健治

日本国内に住んでいる外国人は約290万人(2019.12)で人口比率は2.2%、徳島県内の外国人は6,658人(2020.6)で人口比率は0.9%です。

さて吉野川市内にはどのくらいの外国人が住んでいるのでしょうか？ 2021年1月末時点で415人で、吉野川市の人口の1.0%です。昨年同時期は429人でしたので14人減少しました。国別の内訳を図-1に、経年変化を図-2に示します。

1位のベトナムは37%で155人となり昨年より10人増加。2位は中国で29%の122人、昨年より16人減少。経年変化をみるとベトナムが増加する一方、中国は減少傾向にあります。3位のフィリピンは10%の42人でやや減少傾向が見られますが変動は少なく、日系など身分に基づく在留者が多いためと思われます。タイは多い年は30人いましたが、3年前に16人に減少し今年は3人です。多くの技能実習生がタイに帰国したためです。ミャンマーは昨年同様9人で多くは介護の実習生です。

在住する外国人の半数の在留資格について細谷理事が調査した結果、約85%が技能実習生とのこと。人数に換算すれば350人となります。実習生は市内の縫製業、農業、食品加工業、製紙業、建設業などで働いており、年齢は20～30代です。一方、吉野川市内の20～39歳の人口は5,900人ですので、この年代の外国人比率は6%となります。全体人口の外国人比率は1%と少ないものの、働き盛りの20～30代の人口比率を見ると6%となり、外国人は市内の企業にとっては欠かせない働き手となっていることがわかります。少子高齢化は今後ますます進むと予想されていますので、外国からの働き手に依存する割合や外国人とともに生活する多文化共生の重要性はますます高まってくると考えられます。

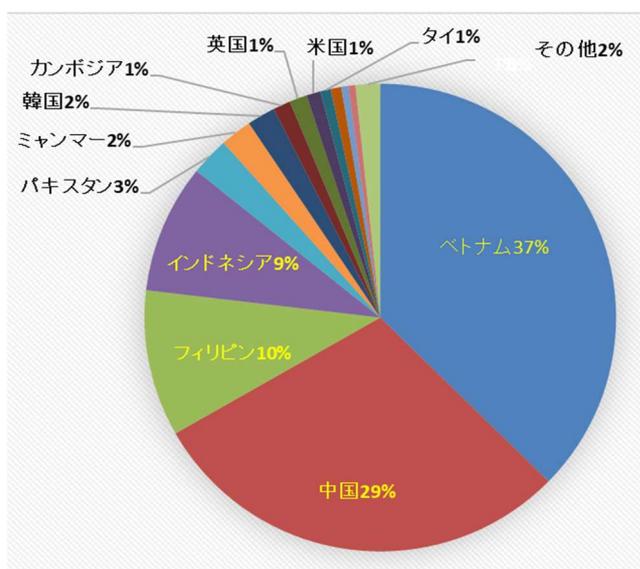


図-1 市内在住外国人の国別内訳
(総数415人：2021年1月末時点)

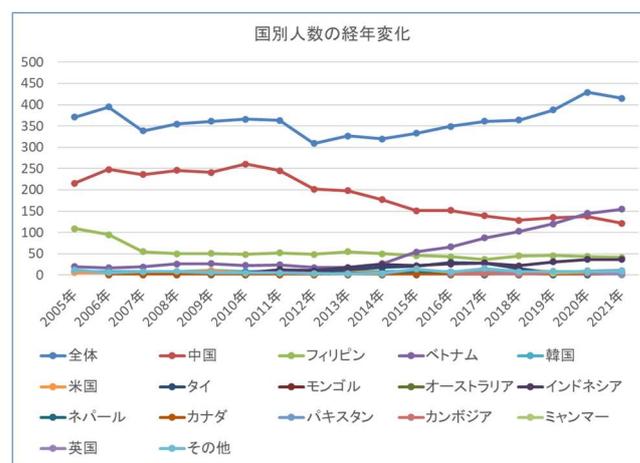


図-2 市内在住外国人の経年変化

◆アフガニスタン人アブドル・ラシドさんの

日本国籍取得のあゆみ 瀬尾 規子

2017年3月にYIA会員の岡田晋さんから、鴨島町在住で日本国籍の取得を希望しているアフガニスタン人のアブドル・ラシドさんに日本語を教えてほしいとの依頼があり、4月から私と後藤田さんの2人で日本語の指導を始めました。ラシドさんは、YIA会員の吉岡さんのお世話で、三重県から徳島県に移住し、藍住町で自動車や自動車の部品を販売する会社を営んでいます。現在、妻と5人の子ども（小学生3人と双子の赤ちゃん）の7人家族です。

日本国籍を取得するためには、小学3年生程度の読み書きと日本語の会話が必要です。ラシドさんは、日本語の会話はできましたが、日本語の読み書きができませんでしたので、まず、ひらがな、カタカナを指導しま



2018年1月のもちつき大会にて
ラシドさんと3人の子どもたち

した。教材は、アルクの「日本語教師養成講座」を使用しました。ひらがな、カタカナのワークブックや絵カードが、とても役立ちました。ひらがな、カタカナを学習した後、1年生の漢字と読解を指導しました。後藤田さんが元小学校教員でしたので、楽しく学べるようにと手作りの絵カードやカルタを準備してくれました。2017年の12月に法務局で日本国籍取得の面接があったので、夫婦で面接の練習をしました。大使館から結婚証明書を取り寄せたり、いろいろと手続きが大変ようでした。アフガニスタンが戦闘中ということもあり、時間がかかったようです。

2018年からは2年生の漢字を始め、2019年からは日常会話を学ぶために「ひろこさんのたのしいにほんご」や「こんにちはとくしま」、「みんなの日本語」を教材として使いました。2020年からは仕事が忙しく

なったことと、コロナの影響で学習は中断していましたが、今年1月25日に日本国籍を取得したという吉報を受け取りました。日本名は「藤田」になりました。ラシドさんのご家族は、会社がある藍住町に新居を建て、3月に引っ越す予定です。私たちにとっても、日本国籍取得のお手伝いをできたことは、とてもよい経験となりました。

◆鳴門教育大学大学院生の日本語教室での感想

鳴門教育大学の鈴木さんは、昨年度も実践研究で日本語教室に参加されました。今年度は、受講生らが自立的に学習を評価できる方法を提案したいとのことで、9月からほぼ毎週日本語教室に来校されました。講師と打ち合わせをしながら、毎回学習終了後に学習記録を作成し、その成果を修士論文にまとめられました。

鈴木さんから、日本語教室に対する感想を寄稿していただきましたので、掲載します。(萩森 健治)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科 鈴木 優香

鳴門教育大学大学院生の鈴木優香です。3月に修了する予定で、大学院では日本語教育について学んでいます。日本語教室には、昨年度から約2年間お世話になりました。初めて伺った際、教室の活気あふれる様子に驚きつつ、私もつられて笑顔になったのをよく覚えています。



授業に参加している鈴木さん（後列右端）←

昨年10月から12月にかけて、修士論文のための研究として、支援者の皆さんからご意見をいただきながら「日本語ノート」を作成しました。皆さんとお話ししながら、地域の日本語教室では支援者の方と学習者の方が一緒に場を作っていることを実感し、教室に合った学習をみんなで考えていく必要があるのだと思いました。研究にご協力いただいたこと、心から感謝してい

ます。

この2年間で書き表せられないほど多くのことを学ばせていただき、吉野川市の日本語教室は私の日本語教育の原点になりました。4月からは小学校教員となりますが、皆さんの笑顔を思い出して私らしくがんばります。そして、外国にルーツを持つ児童や保護者のお手伝いが少しでもできたらいいなと思っています。すべての出会いに感謝いたします。また遊びに行きますね。



授業後の記念写真（中列左端）

徳島県国際交流協会セミナーで

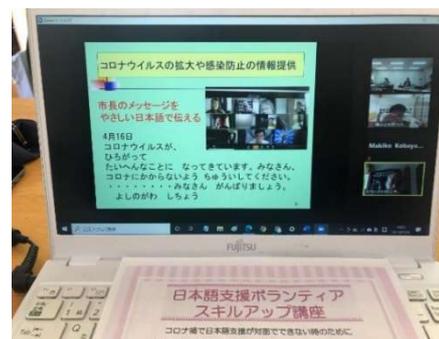
当協会日本語教室の事例を紹介 細谷 裕重

2月20日（土）に徳島県国際交流協会（TOPIA）の主催で「日本語支援ボランティアスキルアップ講座」がオンラインで開催され、徳島県下の日本語教育関係者が約40名参加しました。

今年のテーマは「リモートでの日本語授業の方法」。三部構成のうちの第二部で、当協会・萩森会長が「事例紹介」として、昨年4月の緊急事態宣言時にZoomで行った日本語教室の概要を発表しました。

昨今では、Zoomを使ったオンラインセミナーが盛んに行われています。

しかし10ヶ月前のあの混乱期にオンライン教室をスタートさせたことに、参加者から驚きの声がかれました。他市町の日本語教室の運営の参考にして頂けたのではないかと思います。



； YIA 定例活動 他

◆英会話教室 ネイティブとしゃべってみましょう！

【鴨島教室】 毎週木曜日 19：00～21：00

【山川教室】 毎週火曜日 19：00～21：00

【川島教室】 （休講中）

お問合せ先：市役所生涯学習課 ☎0883-22-2271

◆日本語教室 日本語で教えています。講師募集中！

【鴨島教室】 毎週日曜日 13：30～15：30

【山川教室】 毎週日曜日 10：00～11：30

お問合わせ先：萩森健治 ☎0883-24-8653